

元吉瑞枝様

9.24に書籍をお届けいたしました。

同じ日に新潟へ＜562＞宛送金あり、Tel. あり。左藤
信行様におき、佐藤直樹様と話をいたしました。

経過
中
の
経
緯
を
追
っ
て
記
載
し
て
い
ま
す

(東京地裁関係の文書コピーは、新潟で入付
してご自身の知る事にて、事実ありは
重複する場合でも応用して下す。)

私の提案は、これにて廃棄して頂くとのことです。ただ
＜正本ドイツ語の本＞に新潟で使用する必要があり、可能性の
限りについては、口頭にて伺った。ありがとうございます。

6.11才1段の記録ありと伺った。後書
の日は、6.9才1段ありと伺った。これについては「クニス
の参加者でローアールは、執筆を完了した」とあるが
した記録があるという。記録と一致してはいるか？ 新たに
てや、ローアールは不正確はよりよくなる。(E) 参
うが、参加者の提案をこれではいかがでしょうか。ここに
＜E本＞をまた見る。新たにこの＜E本＞とみせて引き
上げたと思えます。

安藤様より経過報告「～10.3出版～」の提案は、これを
岡山の人達と話し合って参加の方法」というのは正しい

と思えますが、これも進展する場合、また～10.3出版～
への参加の提案の根拠にこのこととして行けばよいか
私も要する注目をしています。

10.1の試みは、その自体としては、よくのことと見て
成功を願っています。しかし、この場合は、お返し
左藤様には自明なことではないかと、テマの
表面の事＜お返し＞から、どこまで行くか、参加者
を引いて行くか、という力量の内面を伺う
に思えます。テマ自体の立場～転倒を小さくして、

(あるへ向かう過程)

そして佐藤様は、~~言葉として含み持った~~
~~それと~~ やり方自身が... である

新潟で＜正本ドイツ語の本＞を後書で使用する試み
は実現させたことが経過
主観的にはともかく、大学院に在籍し、研究者
でありつづいた経過

且肯定的に媒介しようとする。熊本の（自主的）には本
当にはお返しであると思えます。また、今言明が最終
段階で、~~テマ~~ クニスまたは希望者の成程評価を引いて
ける覚悟はありますか？ <E本>のこと
柄はすにさして下す。

(三) - 人の心を動かすには
能く人を動かすには、その人の
自主性を尊重する必要がある。)

3

その人に話を聞かせること、また、その人の
非学問的嗜好として〈小説〉を好んで読む傾向を

持つこと、あるいはその人の生活態度として、
〈小説〉を好むこと、本質的には経世性である。熊本一九州

にわたって週1-2回の〈自主ゼミ〉参加を可能にして、人
類学と比較した。また、その〈小説〉を好む傾向を

その人に準備して、5月後半から6月後半、毎年一書年
3-4月の読書会、交遊の場、強力な武器を

持っていることである。(註：採用、一成績評価の条件)
熊本の元書生としての関係、

(関係性のゆえに、要求されたものは、存在する)
私の著作、その中には直接の参考として、〈三本ノイ〉

語の本〉の本質的改訂作業、これに関連する資料集
刊行の準備(三ノイの出版問題提起は、その)等、

開始以来、その準備を進めた。その準備作業の一環として、
的範囲として、(註：その準備作業は、その)等、

時、現場での完成次第を送り、不元氣で

1981. 9. 26

松下 昇